

琉球大学学術リポジトリ

合理的な夏の洗濯法

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡口, 文子, Toguchi. Fumiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19613

合理的な夏の洗濯法

夏は汗と埃りで着物が汚れ易い季節です。冬とちがい毎日山のような洗濯物ですが、これを新品同様きれいにしかも楽に早く洗える方法を考えて見たいと願います。汚れは早い程落ち易いものです。

夏年着ても新品同様に着る事が出来るコツの一つは洗濯の仕方にもよります。布地が傷むと云う事は洗う回数が多いからではなく、汗や汚れが布地にしみ込みこれが光線殺菌の作用で変化を受け易い為に変傷んで参ります。先づシャツをそのまゝ毎日洗つておきます。二〇八回も保ちますが一回着て翌日洗うやり方をする。二回から五〇回、平均して三回位の洗濯しか保ちませんし、又シャツも一日着ると三日着るとでも汚れのしみ込みが違いそれを押し出すのにもんだり押し出したりで力が入りますのでいつもきれいで永保ちさせる方法が汚れが少い中に洗濯する事が経済的であり要です。

洗剤について

石鹼には固形と粉末があります。木綿類は何と云つても石鹼が一番きれいに落ちますが、井戸水は硬水ですから洗つた場合石鹼が水に溶け難い石灰石鹼となり洗濯物の色が悪く艶がなくなりぎしぎしした感じになり又色には石鹼分が残る石鹼焼けがして特に白布のものは昔色になる部分があります。石鹼の見分け方としては悪臭や脂肪臭がなく、又汗をかいていたり、粉をふいたりしないもの、新しい切口をなめて見て刺激の少ないもの、白く水に溶けるものが良品です。粉石鹼は倍が白くすぐ水に溶け泡立ちのよいのが良品です。合成洗剤とは、海水や硬水にでも使える石鹼としてソープレスソープ（石鹼でない石鹼）があります。これは水も嫌わず布地も絹、毛、木綿なんでも洗える便利なものです。

石鹼と合成洗剤の違いは

合成洗剤と粉石鹼をそれぞれコップ二つに同量入れ水を加えてよく泡立て、液を捨て水ですくきますと、合成の方はすぐきれいに水がきれいますが、石鹼の方はなんとなくカスが残りた感じになります。石鹼の場合はそれだけすきに手間がかかります。すきの際には石鹼分を残さない様に御注意なさる事が上手な洗濯方法です。

手洗い洗濯

夏は何と云つても木綿の洗いが主です。木綿の洗い方から仕



石鹼を十分泡立て、洗いましょ。

上げ方を申しますと、タライの高さです。高さは大変率とも関係して疲れ方も違います。高さをきめます時タライならタライの高さの真由辺りが腰骨にあたる様に工夫します。しゃがん

で洗濯しますと疲れが早く能率的ではありません。

洗濯板は片面はギザギザがあり他方は平の面ものものが便利ですし、なければ板の切端でも利用出来ます。軽く押しついてもみ洗いをくり返すだけで布が傷まず早く綺麗になります。

最初に洗濯物をえり分けすること

汚れの程度、せん維別、色物で落ち易いもの等を分け、又ボケツト等の中も調べておきます。

予洗い、本洗い

木綿物等は二〇二〇分水に漬けておいて（温湯の方が一層早く落ちます）水で落ちる汚れは洗い落して本洗いにします。石鹼は熱湯で溶かします。使えなくなりました石鹼の端を集めて小袋の中に入れて熱湯にもみ出しますと無駄なく使う事が出来ます。

合成石鹼は温湯に溶かし十分泡立てます。泡の高さは厚い程良いのです。其中に洗濯物を入れ軽くもみ洗ひしますと綺麗に汚れは落ちます。水と洗濯物の分量は洗濯物の目方の五倍から十倍ですが洗濯物がたつぷりかぶる程度の量です。石鹼は水一升に対して粉石鹼なら小さじ三四杯、合成ですと三杯で結構です。汚れが少い時はその半分量で足りります。途中での洗剤のつき足しは不経済です。汚れた液の中に入れますと、入れた量の働きはせず、汚れの中に入れますので新しく取り替えるか又汚れた箇所へ振りかけ洗う事です。洗剤は薬のきちんと出来るマヨネーズ等の空瓶の蓋に小孔をあけておくとも便利ですが汚れのひどいものは一回洗ひにします。洗剤を一回で濃くするより二回洗ひの方が要す経済的できれいに仕上がります。円形石鹼はこすりつけると布地に深く入り込みますのでもみ出す事も大きく布地も損み疲れも早くきますからお使いのときはよく溶かして使うか、汚れの酷い部分だけに使う事です。このときはすすぎを十分にして布地に石鹼分を残さない様に注意する事です。木綿物は樹脂加工されたものがありますが、これは固形石鹼でこごし洗ひますと樹脂が落ち折角の風合の良さがなくなりますから注意します。（渡 口 文 子）